

平成 28 年度 若手研究奨励賞 受賞者

〔研究者〕
 <p>氏名 宮本 明子 (カガナ ミヤモト アキコ) 所属 環境・社会理工学院 技術経営専門職学位課程 職名 助教</p>
〔タイトル〕
松阪市を中心とする小津安二郎直筆資料群調査・収集
〔研究の概要〕
<p>網羅的な調査が課題となる標記資料群について、（１）小津安二郎青春館を主とする、三重県松阪市における調査（２）国立近代美術館フィルムセンター、公益財団法人松竹大谷図書館・川喜多記念映画文化財団等、国内他箇所における調査（３）関係者への聞き取りを進め、総数・内容を確認する。以上の調査結果を、2016年現在とりまとめつつある小津安二郎直筆資料群調査結果と集約する。最終的にはこれらのデータを、今後の日本映画研究に活用できるようにするための方法も検討する。</p> <p>国内映画資料の保存・活用をめぐるっては、上記フィルムセンターや東京大学大学院情報学環・学際情報学府、立命館大学アート・リサーチセンター等、各機関・大学において活発な研究・調査が進められてきた。産官学の連携も進み、国内の重要な研究課題のひとつとなっている。一方、資料の収集・保存方法は体系化される途上にあり、関連資料が必ずしも一箇所に整理されているわけではない。経年による資料散逸・劣化のおそれもある。したがって、未整理資料の所在・内容を確認し、関係者への聞き取りを早急に進めるとともに、寄託者や管理者の立場もふまえ、適切なありかたでアーカイブ化する方法を検討してゆく必要がある。</p> <p>このような問題意識に基づき、2016年1月より調査を進めてきた小津安二郎青春館を研究拠点として、小津松阪滞在時のおよそ10年間の記録・証言をたどることを試みた。具体的には、月に一度、他の参加者とともに書簡・日記等の解読、関連文献の調査を進めるとともに、県内飯高市や東京都において聞き取り調査を行った。2017年2月現在、資料の執筆者特定やデータのリスト化にあたっての著作権等権利の確認等課題は残るものの、既刊書籍には紹介されていない資料を含む複数の資料を参照できたこと、松阪市や同青春館佐野洋治館長、飯高市小津安二郎資料室をはじめ、多くの方から都度、貴重な教示を得られたことなどが大きな成果として挙げられる。今後も以上の連携のもと、更なる調査・研究を進めたい。</p>
〔オリジナリティ〕
<ul style="list-style-type: none">・2011年より進めてきた一次資料調査の方法を用いて資料を精査し、聞き取りを行う・松阪市を拠点とし、地域と連携しながら進める
〔期待される成果〕
<ul style="list-style-type: none">・資料の点数・内容を明らかにし、今後の日本映画研究に基礎的研究として寄与できる・地域と連携する（ここから、今後、映画や映画研究が地域にどのように貢献できるかも考えてゆく）